

正改
 増補日本麻子

卷之一

京都所
 日本圖
 二条河原
 神社
 所
 名
 名
 物
 山
 城

二
 之
 八
 十
 年
 七
 月

ル 3
960
2



門 3
籍 960
巻 2

日本麻子卷第一

○山城国 八郡大とく 室南 山首 金皇

不 訓 葛 地 鞍 岩 紀 伴

治 久 世 相 未 綴 表

○船行 二十方六千七十一石

○帝都 花洛 後 横 町 安 寺 右

○洛中 西 東 通 之 分

く 海 邊 須 戸 町 邊

了 方 邊 今 出 川 邊

ち の う ら 邊 元 寺 の ま へ 邊

と ころ 邊 ひ じ ゃ 邊

み つ ら 邊 一 条 と 寺 り



中立賣

出賣

下立賣

下立賣

中の町

奥のたか

千早町

大炊とせり

並いせん

二條とせり

押上り

四いも

あほう小治

三條とせり

六つと

四條坊つ

けき小治

四條とせり

あふの小治

仏光寺

まつら

松とせり

むくら

又條とせり

や海町の町

六條とせり

さあうり

七條坊つ

まこの小治

七條とせり

ありのり

八條坊つ

むめろ小治

八條とせり

こりの小治

あきの小治

くさくさ

九條と

○洛中

小南

きんさん

之分

中の町

ごご町

寺町

川魚町

畑や町

水産町

柳のぞ

富の小治

さうい

町

朝鮮

用

琉球

北

南

無



三つづきを あいの町を

東のとうみ流を 車や町を

くさ丸を 安久町を

しろ町を 夜のくさを

新町を 谷を所つ記板

西のとうみ流 小川とより

沖のほじを いづこ突ぬも

塔川を いづかこを

いのくまを 馬ももんを

大宮とより 松や町を

日くくを ちええちを

津福ちを 千ふとより

りえんのぢ ちの町を

二條御城

江戸より百廿五里七町

京都御諸司代

輿力五騎恩頁 御役料一カ石

三万五千石 享保十年 牧野佐渡守 蒔

○御諸司代前録

天正年中 奥平美作守 信昌

慶長五年 板倉伊賀守 勝重

元和六年 同 周防守 重宗

兼應三年 牧野佐渡守 親成

寛文八年 板倉内膳正 重知

後老中 永井伊賀守 尚庸

寛文十年 前若老中 戸田越前守 忠昌

延宝四年 後老中 稲葉丹波守 正通

天和年中

貞享四年 土屋相模守 正通
 元禄四年 内藤大和守 重頼
 元禄四年 松平因幡守 信貞
 後老中 小笠原佐渡守 長重
 後老中 松平紀伊守 信庸
 正徳四年 水野和泉守 忠之
 後老中 松平伊賀守 忠榮
 享保二年 牧野佐渡守 英成
 同十年

京都町御奉行

與力廿騎同心五十人
 御役料百五十俵宛

千石 本多筑後守
 享保八年

九百石 小濱志摩守
 享保十年

千五百石 松平石見守
 享保八年

法皇御所附

與力四騎同心二十人
 御役料百五十俵宛

千五百石 大久保備前守
 享保八年

千二百石 本多大和守
 享保六年

禁裏御普請城入筋御帶御官

六百石 玉虫左兵衛
 享保四年

京都廻敷支配并高瀬川

二百石 角倉與市

伏見町御奉行 與力十騎 同心五人

一万石
享保五年 リ 北條遠江守氏朝

同町御奉行前録

慶長五年 松平下野守

以後兩支配 柴山小兵衛

同 永田喜兵衛

元和元年 門奈助右衛門

同 山田清人夫

同 五年 山口駿河守

同 九年 小堀遠江守

正保四年 水野石見守

寬文九年 仙石因幡守

天和二年 戶田長門守

貞享三年 岡田將監

元祿七年 青山信濃守

同九年以後三ヶ年 京都町

御奉行支配 元祿十年十月廿五辰

元祿十一年 建部近頭

正德四年 石川備中守

享保五年 北條遠江守

淀城 江戸ヨリ百廿五里七町半 京都ヨリ三里半 大坂ヨリ九里半

元和九年依 台命築之

土方三千石
享保八年 リ 稻葉丹後守正知

淀城主前錄

元和九美濃大堰
三万五千石

松平越中守定綱

寬永十年

永井信濃守尚政

同 舟後管津替
七万三千石

永井右近奏尚征

寬文十年

石川主殿頭憲之

同

石川主殿頭義孝

寶永八年

石川石之助總應

七万石

松平丹波守光昭

享保二年
下総佐倉替

松平三之助

享保八年

松平左近將監兼邑
稻葉丹波守正知

淀川過書船支配

二百石

木村源之助

○町御奉行前錄

寬永十一年

五味備前守

万治三年

小出越中守

寬文五年八月六日以後兩奉行

寬文五年

雨官對馬守

同

宮崎若狹守

寬文十二年

能勢日向守

同 十三年

前田安藝守

延宝七年

井上志摩守

元禄三年

小出淡路守

同 五年

松前伊豆守

同 九年

瀧川山城守

同 十年

安藤駿河守

同 十三年

水谷信濃守

宝永二年

中根攝津守

正德三年
同 四年
享保六年
同 八年
同 十年

山口安房守
諏訪肥後守
河野豊前守
本多筑後守
小濱志摩守

禁裏附

與力五十騎同心四十人宛
御役料百五十俵宛

千七百石
宝永七年
久留伊勢守

京於御諸司代 与力五十騎
同心百人

板倉伴實守

板倉周防守

牧野佐後守

板倉内膳守

永井伴實守

板倉石見守

戸田伴實守

稻葉丹波守

土倉相模守

内友大和守

小笠原信濃守

松平紀伊守

京於并伏見町御奉行 与力十八人
同心五十人
石川敏中守

同制

同制

後御老中役

前御老中役

後御老中役

上ノ
淀城 江戸ヨリ道法百五里町半
京麩ヨリ三里半上坂ヨリ九里

元和九年依 台金築之

城主代々

元和九年 松平越中守定綱

長流大植江所替

寛永十年 永井信澄守當以

三万三千石

永井信澄 大寺尚征

丹波宮津江所替

○當城主 石川生殿頭昌勝

七万石 當城三萬八千石

寛文九年 松平丹波守

○山城御代官

六百石

小坂仁右衛門 坂村長兵衛

四百九十石

上林 岩倉

○京麩廻り 救支配 并三條丹

○洛中洛外一藏神社類

石清水八幡宮 出雲久世郡 男山ト云

信和天皇の御宇貞觀元年八月
廿三日大安土のゆつ行敷敷園
一々其處の必字作より當
公男山越のころの勸誘す我神

社領七千四十石

茶臼 善法寺

志水 新善法寺

山下 田中善法寺

右の所西谷東谷南山の台坊舎
於舎甲ヶ所

賀茂社 出雲免家郡小山下

この社御神祇いひりし健甬命
 あり其のまひまひより娘とらふ
 にいざりあはれせよこの小川の邊
 にあまのいづる水とより冊巻の
 夫流るるこころうらうらひのど
 にさしむるむすのらぬーさし
 くのまはして男子とやあり
 あやーのこころささくわけ
 三さいまのしとれこの子ぐちを
 ちくんだめま人とあつめあえん
 さうんぬこれうのみまさうら
 とのまをんげらちよまさす
 とらふをばさうらと母あまの
 夫さすよとれまの天神の子
 ありとくならまらうらうら
 天よのかりとれまささす
 今の下賀茂のまはくうらら
 神さすかこト賀茂の御社の
 神をまより娘ありまき母あり
 夫いそこのとのけとら御子た

あかしらとりの化し多あり
 夫のそのとれいづらとあ
 こらあり今の松のま
 上賀茂社領二十七百石

神司

坂本仁後

社家

二十一人

下賀茂社領五百四十石余

神司

利本佐三郎

同

根本修三

松尾社

葛野郡松尾里に二社

本社東にあり賀茂のまより
 娘せこの川ありむろいとし
 母あり夫化して神とつ
 當社太神の神祇也
 文武天皇の御はう大宝元年まの
 初に建ちて号大山神比叡
 山目吉の社と一社也
 社領九百三十石余
 社家

松尾勘解由 曰權之作 曰並丸

曰 宮内 曰九近 曰主稅

曰 民部 曰守兵務

松室式部 曰隼人

右の身神方三人 石寺

石寺

同社御旅所 七条朱雀

社領百四十五石

松尾内務少

神主

平野社 小富国葛野郡平野立

桓武天皇延暦年中始て遷守貞

親奉中祭祀とてありて御社

八姓の祖神也

弟一今木の神是景行天皇の皇子

弟二本木なる源氏の神也

弟二久慶の神是仲哀天皇よりて

平氏の神也

弟三右國の神是仁徳天皇よりて

平氏の神也

第四比賣の天神是天照太神よりて

大日氏の神也

第五懸の神是天穗日命よりて

葦原氏の神也其余は中務卿

秋篠氏の神也

社領九十石余

社家

中西右京 鈴麻美敷 伴友右衛門

吉田社

社領五百九十石

此社ハ山部中納言の春日宮所を勸

後ある所也日本武中神祇

たりし所也

正四位下左衛門佐

千石

藤原貞経

正四位下左兵衛

吉田平石

吉田兼連

社家

大角因幡 日名戸 日射る
秋麻鹿原 日渡路 田内記
田平西良 山田作藏

春日社

右同所小方

第一世雷命

麻路

第二世金命

香取

第三世足振命

第四世太神 天照大神分也

社領十二石

同社

し訓郡大原野

桓武天皇奈良の京と長世より
あいらる所三笠山春日大社
内裏にまきくして后妃の系流
くあいらる所とくは下子勅法
し訓郡勅法困院左元良
冬詞公也

祇園社

毛宕郡八坂

当社ハ清和天皇貞観年中に
浴室のよりありて尾加津橋の
祇園寺及天王とて亦勅法す
り

社領百甲石余

社人九人
宮司二人
社僧十人

同社御旅所

京極通羅末

神主 坂井主膳

稻荷社

本井郡

當社の御神ハ和魂年中に初て
伊奈利山にげんトありたり
弘法大師宗子の門弟ありあり
たみくすありらる守とあり
し訓郡の御神にさかひく
とくありたりとてはありあり
すくことありたり
いありたりとありたり
こしありたりとありたり

東ちのがらん建ちの坊うらに
てをんトウウのうきいのみ
とせめー例あくしこと
神の月の大寺よりより神依
とせめたさるるとも

社領百六石

社家土人

本所

光澤寺

○同社御旗所

油小路通八条

神主

右京亮

上御霊室町通山の及町

○御霊宮

中御霊寺町淨花院南町

下御霊寺町西御上町

出所社八所あり才一さび乃

才二才二出所乃天皇才三才三

才四才四出所乃天皇才五才五

才六才六出所乃天皇才七才七

才八火雷の天神

上御灵社領九十石

下御灵社領二石

神主板垣民部

○天満宮

小野右近の場

天曆元年庚辰相承の社領と社

領祀まりまゝ朱雀院の御宇

次は赤の坊つてふらら神事

社領一して存とのう場ます

三のらんらりそまうの造き

社領五百八十石余

社司

松梅院

徳松院

新院

○友木村社

紀伊郡深草里

天長天皇の御子三宗舎人親王乃

御あり勅して崇乃皇

帝と延号あり禰佐天皇神護
慶雲年中に造立

社領三百石余 社家七人

○梅宮

葛野郡梅津村

景和年中の勸法四所に於て天
皇の母后に於て梅氏の社神也
梅の皇后は昭太政大臣正位梅
の徳友乃御娘法皇公の御後
さぐの天皇の母后也此所神家の
ゆゑと産屋の下に安をうけし
まきたりて人として皇后の御
ちりいしる

社領五十石

橋本末女

社家 同左京
同持太夫

○八神殿

吉田本社の後まき

大岡秀吉公の命によりて
勸法すとのり

○貴布祢社

免名郡鞍馬山麓

當社大の神は神代のおいさか
の号十梅の紐もく火の神と
あまの三郎とあまの二郎
則ち貴布祢の神也

社領十石九斗

社至
祿臣

○御香宮

木井郡伏見里

此社ハ神宮后宮の御廟也ト云

社領三百石神主

三木右京
同 之水

○熊野杵現

木井郡今熊野

當社ハ自川法皇の御の正神
を祀所ハ勸法也とのり

別當 竹芝坊

○七野社

洛陽千本の東

景和宮春自大の神ハ於の小に
七野ありその社としてまゐる
御神あり此所社名ありとのり

離宮八幡 し訓郡山崎

治和天皇貞觀元年十月八日
石清水と白河にうつりて
社領七百石 社領年々此に増

右宮八幡 ワカミヤ 洛陽五条の橋東
社領八十石 社領 宮内

二条天神 ニノヤ 松尾通西の洞院角

此御神、女彦若名命也此等
夏の中国より入りて此の
を以て御神と名日本内地行
と作すまゝ此法業とほりり

民の病苦をとりて災疫を
とりひき御神ありとあり

社領寺本寺彼

四日大御神 カフ し訓郡西の西

此御神、月讀の命とあり
社領七十石 社領 郡自寺

四宮神 ヨロイ 宇治郡山科の里

此御神、太玉の命の宮跡と
して宮乃食の祀神也此科

大御神とあり
雲韓神 クモカシ 洛陽醍井通三辻を去

文子天神 フミコ 小社大御軍の社を以
野 ノ さがニと虎の南

伴勢多宮、宮に天宮の御時
より事おこりて、倭姫の命
より幼る事本のを居小宮
恒今にそのことありあり

福王子宮 フチノミヤ 留所村

社領 八井但馬

新日吉社 ニヒヨシ 東山今熊野、之

新玉津石 ニイタマツシ 松尾通鳥丸西へ
入町南うらぐ

○大物軍社 タイシマワケン 西の京紙尾川

○大國大佛社 トヨクニクイミヤウジ 大佛殿後山と

○土佐正之社 トサシヤウジ 四條三町御旗山

は社指言文拂の社ありとて
毎年十月廿日洛中強人
群集をくふす

大の外小社冥廟畧

○禪宗佛樹

○南禪寺 ナンゼンジ 東山為木田山

當寺ハ龜山法皇の御教寺也
開山大明太子作堂門也

後光嚴院文和年中新
之瑞龍山天平南禪寺といふ
天海の例はまうすにあり

寺領五百石

也禪領千石

○天龍寺 テンリウジ 葛野郡現像

光の院曆夜三年の長為軍
建之開山及想は作貞和元

年八月晦日供養龜山殿の
旧法より雲垂龜山天龍
禪寺と号す

寺領千七百廿石余

○兼天寺 シヤウテンジ 洛陽と立賣鳥丸東

後小松院御宇の徳三年草
創の軍義は建之及空心

竹勢の地の地也萬年の相國
兼天禪寺と号す

寺領千八百石余

○建仁寺 ケンニンジ 洛陽依屋の南

寺門院建仁元年征夷將軍

山城之國京内裏二条略圖



力毛川ノ十カ

寺町通

公承方

公承方

公承方

東宮御前様

本院様

禁中様

新院様

方衣公

公承方

公承方

六ツ川

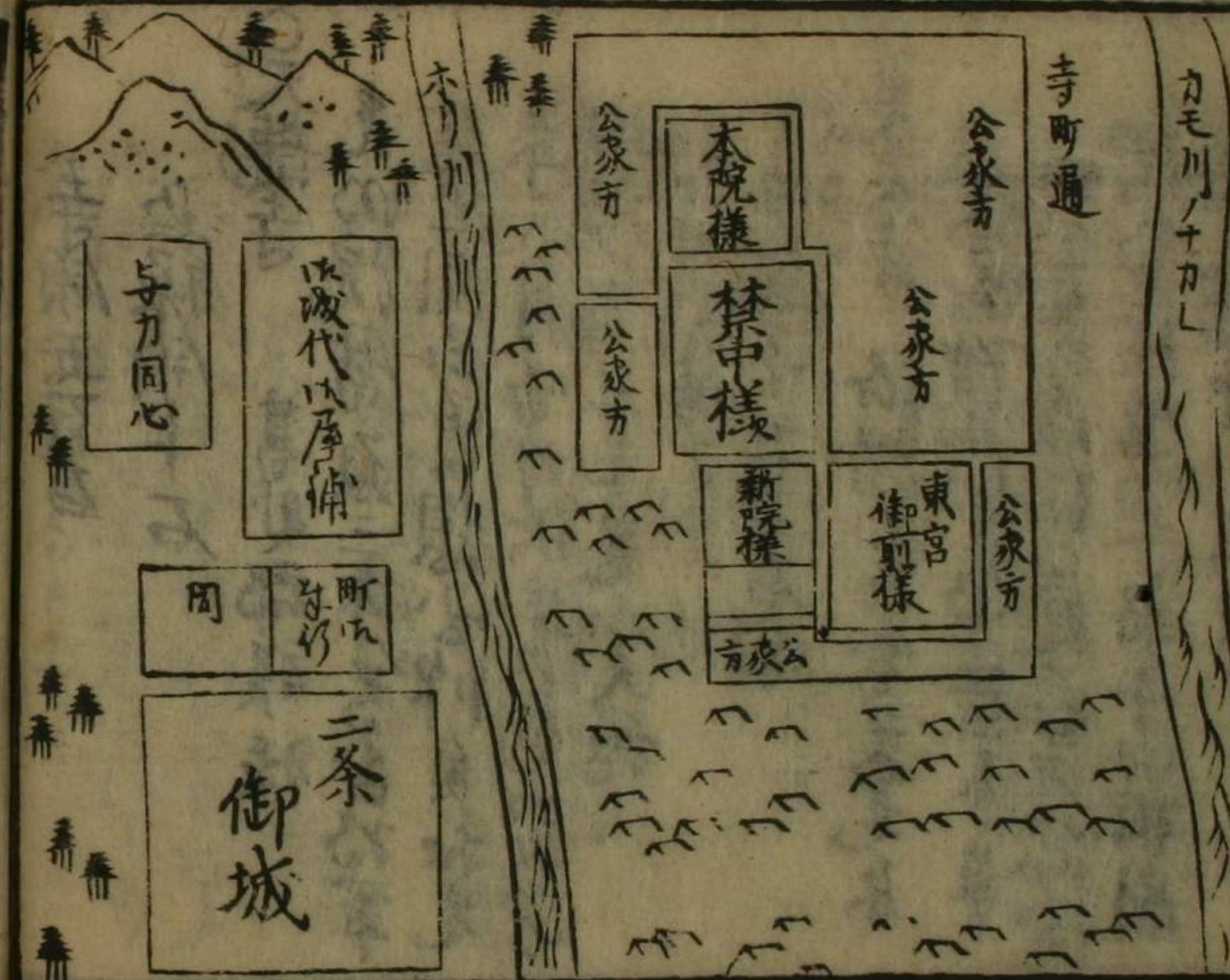
次代以厚浦

与力同心

岡

二条

御城



山城之國 八幡



大日本山

源の教多し建之開基榮西福作
東山建仁と号す

寺領八百八十三石

東福寺 洛陽大佛の南

四條院佛堂延應元年九条の象

公の皇子創開山聖三は仲惠目の号

寺領千八百五十石

萬壽寺 寺領千五百五十

龜山院文永九年十月廿四日号

創京城山と号す開基聖三は

仲の才子宝光福作

妙心寺 洛陽の西仁和寺のと隣

花王法皇皇子創正法山と号す

開基惠玄福作

寺領四百廿石余

大徳寺 兼野

光嚴院佛堂大燈心作乃開

基龍室山と号す

寺領千二百廿石

吉祥山正傳寺 洛の小西宮茂

宗の元庵号門開基

寺領百五十石

大梅山長福寺 葛城郡梅村

開基真如尼

寺領三百六十石

龍安寺 洛の小山

細川勝元建之開基義天和尚

寺領三百九十石余

等持院 小山衣笠山の麓

後光嚴院延文年中源義隆

將軍建之寺領四百廿石

妙光寺 小山信保村

後深草の院佛堂開基法燈

國師光心和尚

○麻光寺 洛の西山

源義俊將軍の建之金相寺

○慈照寺 東山津長村

源義政の建之則東山殿義政

○三光寺 尾宿郡八坂の御

太閤秀吉の公小の政所建之

○條川寺 磯原

應永廿四年將軍義海公建之

○寶鏡院 磯原

將軍義隆公於園山及想國

○西芳寺 西山松尾を以

用基聖徳太子公於法隆寺也

○し訓寺 洛の西山

推古天王の御中於今多天

○真如寺 宇治

後醍醐天皇の院の御宇曹白

○若くは山萬福寺 大和郡

兼有屋敷子の奉建之開基

○光通寺 嵯峨

後光厳院勅於今園山於心

○雲谷寺 小山和泉の邊

後水尾の院御を於園山一線

○長谷寺 洛陽東山

文和和向

○長谷寺 洛陽東山

後光院の御宇女院御勅下
寺領二百石

○花山寺 花山

陽成帝の元亨四年御創寛
和二年花山法皇為寺主御
て御出家ありしにり

○光光寺 一乘寺村

元多利乃字校をり所
寺領百三十石

○淨土宗佛閣

○東山太谷寺智恵院 東山 吉水

順徳院の建暦元年建立開基
源空上人目下院西伴古惣中寺
四ヶのふち随一也ふり安海派
の作 西寺者

○紫雲山金戒光如 東山 新雲谷

伴古宗徳西四の一本寺本寺

惠んのは用基源空と人知えの
ゆき岩と出ありゆいづくる
今佛の勢を留して元生さ
どの拍言を達さんと法を
種にこそいありしよひふ
ひくしれのをさとのがりし
くばましそが法の初らまら
へきふとくあをを志あり
さくくしそは更雲山とのか
びふし徳岩流るをさくま
ありしりの名候あり

寺領百三十石余

○長徳山智恩寺百石余 伴示巻の 西山中村

伴古院西四の一ふり源空上人の
才子勢親坊用基本寺、春月
の修り寺領三十石余

○新雲山徳来山 洛の東山 永親堂

文武天皇の御宇御創年中の

景創 吾山其佛弘法の甥あり
元ハ法相宗あり

秀融院の御宇中真基永親
律仲の建立して福徳寺なる

三宗を並りなる見返の佛と
りぬ永親行乃のく此御伝も

あかしく此乃ありく此を
見えりあひくこりうさりせり

けり一末のせまうたがうき
さかあゆらう寺領甲十三石

○^{ホウツクシ} 轉國山光徳寺 西山聚生野
空律高基生坊の用基なる傳名

釈迦建立念佛三昧院と号す
本寺法流院惠心の化基生法仲

の安基伝也
右の福徳寺光徳寺此ニテ寺曰
本寺長宗西山流儀のなり也

○^{トク} 折言教寺 系振通三条下町
為寺ハ天智智三皇の御建立に

て奈良の系にあたりと推其
天智の御代に系にうけり

日大御神皇同子茂子國々云
父子の人よあうらと記況して

作らざるやうい寺ひり
小川ありりい寺長園白

取より川あり也再山惠隆法
仲寺領十六石九斗余

○^{フク} 福寺 系振通蛸葉仲の内
律長宗深の系流後の本寺也

本寺三三源堂上人の傳也
寺領十八石余

○^ニ 心院 乐山智息院境内山
開山三三源堂稱念上人也

○^ニ 新宮光寺 系振通寺町
本寺三三源堂と云

一条院系創勅教寺なる瀨
且

浮檀金のまじりの三尊菩薩光寺
の分所の像は西甲斐守義成
築らる也寺領十七石九斗余

○花開院 寺町通筋遠橋と町
後ありくこの院宗創勅額寺
本寺よりまじりく大作の地あり
寺領十石

○佛地寺 系振通今出川と三丁
村と天守天曆六年六月に建之
大上天皇の御教也寺領廿六石

○中覺寺 五条下寺町
用基玉室上人寺領三十二石
○長海堂 右同所

○延喜寺 右同所
後白川の法皇建之寺領廿七石
と縁の院御本願なる大向
本願寺を他寺領十八石余

○阿彌陀寺 系振通今出川と町
天正年中法王上人建之織田信長
この西月原とわしめくび地を
報恩寺 寺の内は小川西へ上下
寺領七石と半中

○祇園村 七条朱雀控現堂
用基取は太子なる地を
浄教寺 系振通四条下町
寺領六石

○大真寺 系振通今出川下町
寺領六石
芝の菜畑と有る

○令則寺 系振通三條上町
兼和十二年向承上人の建之
本寺地系舟小野の管との地
寺領三石

○三福寺 系振通本町下下
寺領三石

○勝安寺 後小洛下丁

後奈良院勅額寺殿卅石

○灵山寺 山天恩

法皇羽院建久三年の建立用

基源堂上人

○寂光院 右日下草尾

兼徳年中良忍上人再基本

寺地蔵寺殿三十石

○勝林寺 右日所

法統上人台塔と法傷あり

とれ子ばあき身乃院比叡儀

に院扱のまごころ

寺殿五十石

○融通寺 右日下南の坊

元山良忍上人建立融通寺法

○浄生院 院殿

兼保年中のま創建保年中

中に再興酒造と人のゆかり

と人

○小倉山二寺院 院殿

法古徳空上人系庵也本寺

法院釈迦像と二寺院と

寺殿百十九石余

○徳定山正法寺 八徳志水

寺殿五百石

○七尋山あ方ち 五寺の庄

法子法院次郎と号す

○あえ寺 山科

堂也と人住寺子といへ近也

○九石寺 鳥羽

鳥羽の法皇後法皇御

離宮と九石所建立との

地一の寺あり

○法花佛閣

○大光山本國寺 坂川通松尾

後醍醐天皇の御宇建立之元山

日明寺人寺願百五十五石奈

○具足山妙嚴寺 寺の口通小川

再基日像上人寺願二石

○本堂山妙海寺 東極二条下

坊舎融院の御宇建立之再基日

朗聖人

○妙塔山妙海寺 東極二条下

再山日什上人

○具足山をいふち 東極今出川

再基日像上人

○法鏡山妙海寺 東極通二条上

後柏倉の院御宇建立之再基

日像上人

○叡昌山を法ち 坂川通寺の内

後赤門の院御宇建立之用山

日親と人ち願十二石

○本徳ち 東極端小徳と町

寛正年中建立之再基日隆上人

寺願四十石

○卯木山妙海寺 寺の内をいふ東八

元山日像僧正 十石

○頂妙寺 二条川通東野中

後柏倉の院御宇建立之用山

日祝上人

○廣布山を本海ち 坂川通今出川

後花雲の院御宇建立之再

基日永上人あちの目甚き有

人の本像はあちの小倉山乃

林藤に法花經讀誦の声

ふこえーいふ坊せーい寺に
安委可長強多ーいふり

○寂光寺 東横竹谷町上町

寺領白石

○妙泉寺

松ヶ原

白石

○西安法寺

二条

目黒上人軍基

○寶光寺

深田山

再基日像上人寺成白石

○寂光山常照寺

多摩峯

○真徳寺

鶴冠井

再基日像上人

○真隆寺

日所

正親町の寺相与

上鳥羽

再基大光大徳正

○護國寺

山科

日蓮宗の学寮檀下の地也

○一向并時宗佛場

○東本願寺

洛東 六条

正親町の院御宇天正十八年
建立

東本願寺前大徳正光暗

○西本願寺

洛西 六条

正親町院天正十九年建立

西本願寺前大徳正光常

寺領四十石

○真聖寺

西六条

栲俣正圓起

○佛光寺

五条坊通全

佛光寺栲俣正光唐

○本拍言寺 河内町二条と町
三田流家の二高寺也

○新普光寺 五条橋通町西入

○其基一遍上人二世應向と人西
仰の御教を仰教堂と号す
扇を折てとごとくす也

○其山正法寺 洛陽東山清水の麓

○佛母大師の其基他普光と
りて是寺其廿三石五斗

○今玉山復持寺 東山吉水南

○寺其廿四石五斗

○東山長承寺 東山吉水の月

○建を字多太皇の御つらむる

○土面観音寺 領八石四斗

○丸山安樂寺 東山吉水

○再真慈徳和尚寺 其廿三斗

○紫雲山極楽院 東山吉水の麓

○其基室也と人い寺もく其基
とてくりく日ごとくす也

○二條道場 洛陽京極

○寺其廿三石

○今續

○其基海内上人寺 其廿三石二斗

○勸教光寺 東橋通小路

○其基一遍上人寺 其廿四石六斗

○金光寺 七条東御院

○右のりち其百九十七石

○市中山令光寺 五条下し町

○其廿八石四斗

○園名寺 東橋通ひも川

○其七十四石六斗

○禰名寺 右のり

○其三石

○法堂
五宗持世の宗
持川あり

ち辰百三十七石

○大音乃場
東山

ち辰七石五斗

○印称ち
洛陽東極

ち辰廿三石

○諸宗佛閣

比叡山延曆寺 王澤の世寅 道法四里

桓武天皇の御孫持世大僧延

暦七条に奉創曰十三年に

供奉一宗の觀院と名之本位

大僧自他の某僧徒ちハ山

王七社中トと加く廿一社

雲母坂也

中堂

西塔

横川

戒壇院

に建立い何延曆寺とち号せ

あり

中堂院

觀音院

文殊樓

楞嚴院

正音

不孝の天台とちわく面とす

府至天台の院轉主

○東叡山宮様

坊舎の敷

御初り言
哉易と野

東塔東谷 十ヶ所

東塔小谷 十ヶ所

東塔南谷 十ヶ所

東塔西谷 十ヶ所

西塔南谷 十ヶ所

西塔東谷 九ヶ所

西塔小谷 十ヶ所

横川 十ヶ所

飯室 五ヶ所

無幢寺 十ヶ所

方廣寺 洛陽大佛殿

後陽成院 天正十六年考片

妙法院宮 二系法親王竟怒

御知行千六百三十三石

曼殊院 一系村

往古小山の後也竹藪門法

御曆三年一系ら子孫也

公系宮 二系法親王良高

御知行八百廿七石 坊官二人 候人三人

青蓮院 桑田口

候御院の御知行大伴の

御基

名草院宮 二系法親王三澄

御知行千三百三十石 坊官二人 候人三人

常修院 小山小倉

梶井宮 二系法親王益備

御知行九百六十四石 坊官二人 候人二人

毘沙門堂 山科 寛文年中の建立 御基花山の院大伴正公海

○ 毘沙門堂 京法親王寺 寺悪
御知行五百七十石 坊官一人
候人二人

○ 般舟院 園子町 寺悪 西合
寺 寺 寺

○ 日本寺 山天宮 寺 寺 寺
山つこの別院也 寺 寺 寺

○ 後醍醐天皇御宇 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 基を築くも 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 常陸守 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 揚徳院 大佛
寺 寺 寺

○ 後井儀 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 泉涌ち 大佛 東南
寺 寺 寺

○ 永徳三年 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 戒光院 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 北山 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○ 寺 寺 寺
寺 寺 寺

○本定院 寺領廿名

行基英の系創

○大通寺 くーも通七条

源のまゝ勅云ふの政所二位の尾
建を依る尾ちいふ

寺領二百八十名

○信心院 東御直を頼るの憐

い寺子和泉式部のもろあり

○松尾山 洛の山

一其基弘法大師の才子智泉
と人ち从三十五名

○海下る 久世郡神楽の奥

一其基道雄和尚

○常光寺 宇治の里

一其基道照和尚今も律院也
柳寺と云

○仁和寺 洛陽西大内山

光孝天皇の所創して系創

本依はまゝの二なる天皇御等

と云仁和四年八月依光孝

道尊御弘法大師の才子三統

修正

然るに、幡大異大社九所を勸

法を別當の初、延暦ちの出仙

律仲治、東ちの蓋に修正を

より今に相継く他門と不交

南の御室寛平法皇帝位を

捨佛衣よ入佛なる法あり

御室とのまゝ元より始る也

代々御室は世乃一なる後新の

と首慈法務とする自他つ

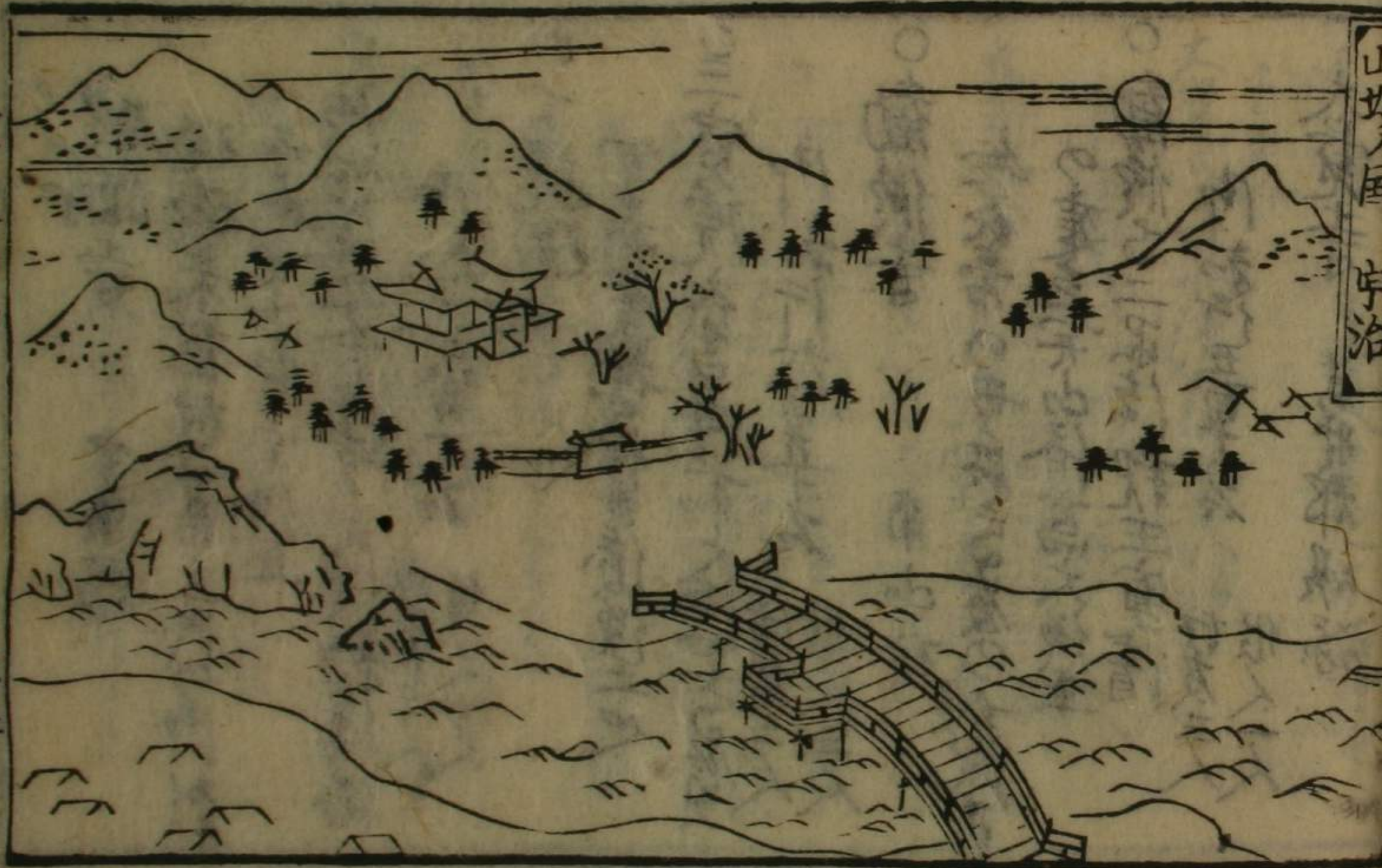
御室宮様

○御室宮様

御知行年五百名

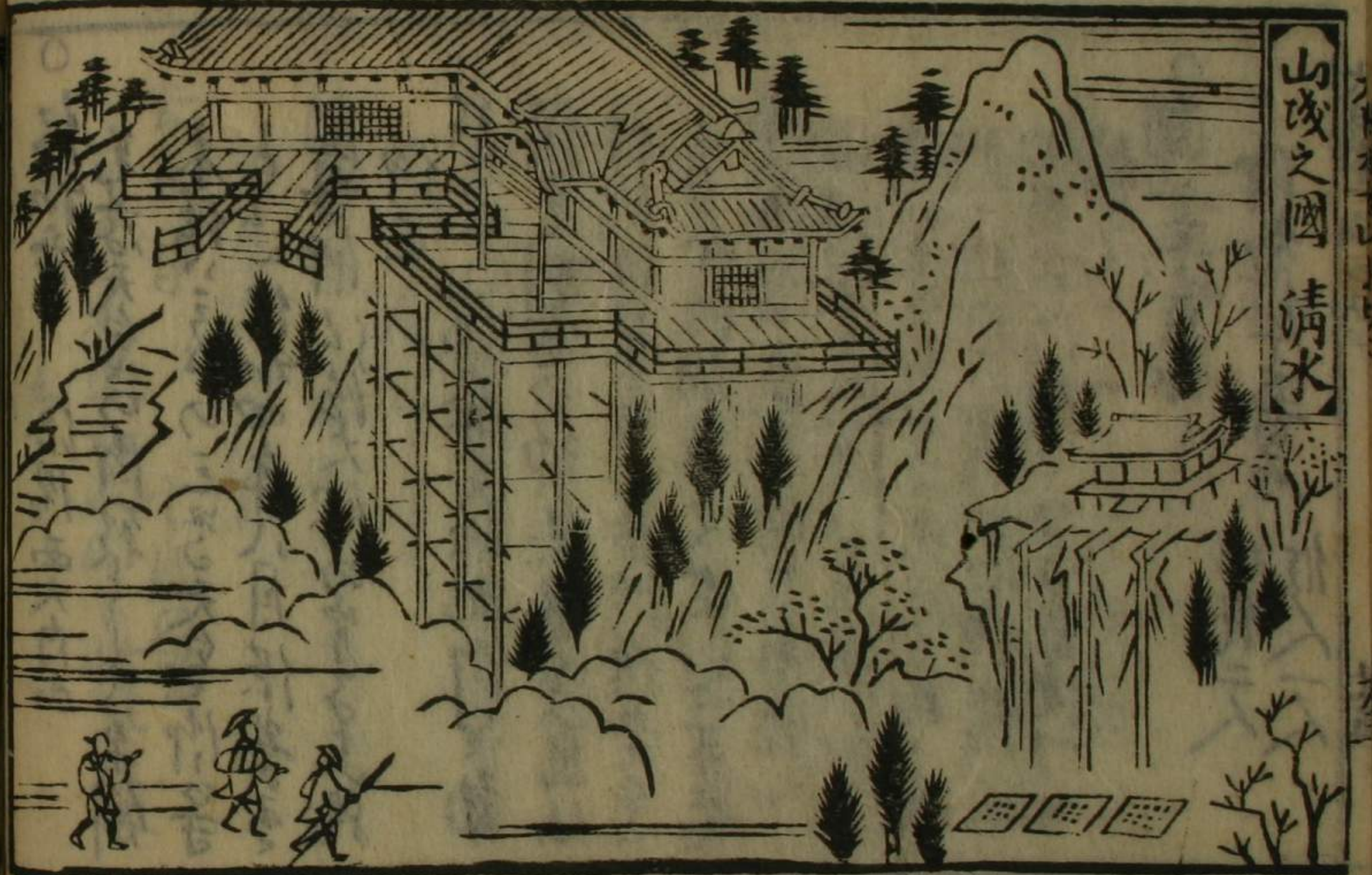
坊僧三人

候人一人



山城ノ國 宇治

大正
七五



山城ノ國 清水

大正
七五

醍醐寺 宇治郡

醍醐朱萑村と帝三代の御所
寺也 宇治郡 室後正

○法心院九条法常大僧都後海
佛知行三百十石 坊僧三人
僧人一人

○下醍醐

一其基を挽ち賢俊後正也

○三寶院有司前大僧正の賢
佛知行六百五十石 坊僧二人
僧人三人

○勧修寺

南山神

延喜帝の母后の女御子
の建立 其山清高僧大僧正

○勧修寺二品法親王寛濟
佛知行五百十石 坊僧三人
僧人一人

○大覚寺

葛城郡 醍醐

醍醐天皇の故宮也 大后改て
ちとす

○大覚寺二品法親王玄性
佛知行十六石 坊僧三人
僧人一人

○東寺

号以秘密持法弘勅ハ
鴨山教王護国寺ト

高寺ハ吾等の鴻臚館トシテ
桓武天皇の御建を後の任勢
人を以てす 大内御所隣の東に
あり 佛よりさうが天皇弘仁四年
正月宣旨ありしに 弘法護
国家の道場ト云ふ

たよりハ某作 三石

講堂ハ仁王秘法の密儀

高宗天皇勅録也 権皇何大の神

内院也

八幡大衆

寺領二千三十石

洛陽九条大宮より

○ 神護國祚シノゴ 雄山

稱述天皇の御宇に神護大業乃
御説宣にうりて光仁天皇の
也る御制に及ぶの法キヨク府品造立す
本任某御如來・大業の御如
法書に傳大業 弘法大師御筆
令堂内陳子安をす
大伴御前八幡大業の神筆納
凍坊に安をすち依二百廿石

○ 加禰院 大佛香の南

安長年中多く修りて者ども乃
婦子棄若の爲に建立妙等
の南に和尚を祀とすち後
紀に根來完禰と人の祖流
としてま言寺也ち依五百石
院に檀信正陽春

○ 瑞意山スエツツ大報恩寺チホ本報恩堂

用明天皇の御宇に創を坊を用
の坊と名し例年二月遺教經
の會式ありち依百石余

○ 金山キヌヤマ山ノ心蓮ココロ堂ドウ 十本并是
山の林

其基空海九品三昧院より定
寺依百石余

○ 照心院 白川

二品法親王 坊及二人
御知行千石 僧人一人

○ 冥相院 岩倉

二品法親王義延 坊及二人
以知行四百十二石 僧人二人

○ 香蓮院 東山トヤマ岩場西南

二品法親王道祐 坊及二人
御知行千四百石 僧人一人

○ 清宗寺 洛カ東山

る舎院治承二年依伯公侍
建立さうく院のミサキ後小督乃
局の墓あり

○智福山法橋寺チフクサンホフクインジ 醍醐大井川

和明六年の多刺都の道昌
再基本寺こころ院并
寺於七十七石

○唐隆寺ミツリヤ 葛野郡太秦

推古天皇十年の多刺都を徳太

子の命にけりく秦川路遠を
なす業作 西徳太子三十八

年の御影を毎年八月廿日
法る寺於六百石

○新日家フチニノミヤハツラジ 白やま 光岩山

光仁天皇天應元年に當る
光岩の郡よりけり

再基文後中興再基崇徳
建立の和文の唐麻呂よりり

▲亦縁起より後の小角とを遍
上人いふを登り日野若男大前

坊法天狗の天木の松セキを
とらんくらの松とさして法

徳の神とす

▲大前坊一より栄術大前と名

又徳天皇の御時洛陽の人
正六位紀の朝に御必の子にま

所より少人より弘法大前ホフキの家
をたす徳と承和の初め入度あ

つる海朝の後言雄の言より又
十二年出まりがいはの御より

所深衣の后とらんくはまひ
あひの火と徳より記後子貞

親二年二月より記より年六十一
その是魂大天狗とあり則徳
岩山の太前坊をせとらり

三雄ハ宅家の別家也

▲木堂ハ地蔵弁娘立ノ不動具ハ
門然リ樹真の院太師坊並尊像
其の薩也寺領五百八十石

○宅家の清涼寺 宅家郡さぐり
南寺ハ源承天白の御願寺海
の伝不勿り寺領九十七石

○檀林寺 さぐり

再基唐の義堂

○松尾山サカキ 洛の小山

寺領二百廿六石

○青狗山清水寺 洛の青狗山

弘仁天皇の御宇宝龜十一年の
若劍延孫上人具後にいりりり
造榮成ハ云々回村の軍大同二年
宿教子よりりりり建立すりり云々
本寺楊柳御親音奥院子りり
親音孫を地蔵持現本寺也

文殊支利 其塔の東に田村堂

○補陀フタト山六波ロクハ新ニウ家カ寺 洛陽

村上天王天曆五年堂也と人建立
本寺十一面親音寺領七十石

○法現寺 东山八坂の塔

正曆十一年小野谷に建立と云

○甘蓮花玉院 洛陽大元三十三の

山宗徳院天嘉元年の若小創
世三つり堂とつくりりりりりり
神と安委す供養其日三月十三日
身羽の院のなか建立するの忠
盛を以り其堂の長十段の小に
より小にまゝと六十四り一尺八寸あり
ち領十石六寸

○頂法トウホウ寺六角堂 其堂の西馬尾寺ハ
再基聖徳太子にりりりりりり
青寺領一石

○ 平寺も因幡堂 弘通寺馬丸
寺願四十石

○ 孫宮寺 洛の六波羅

○ 弘法大師の御基小社の御堂の像
あり世より六堂と云

○ 行願寺 東極寺

○ 一条の院寛弘五年の御堂と人
建之本なる長八尺の観音像
の傍に御堂の神位より刻と云世に
本の柱の本より刻と云世に
草堂と云ら成二十石

○ 山寺 梅尾

○ 寺願寺

○ 財寺 山寺

○ 寺从離八幡の寺

○ 戒光寺 山寺

○ 寺从百廿石三言宗也

○ 神寺 日所離まの山

律相宗も成五十石

○ 丹波行院 木井郡伏見里

○ 仁徳天皇の御所と御所也

○ 平等院 宇治

○ 後冷泉院の永承六年に建
ち供養の御堂の裏白紙通云

○ 海住山 宇治

○ 天武天皇の御所御基役の寺

○ 女界山補陀落ち洛小市有村

○ 法皇深密建立四位の御所

○ 那小町儀あり

○ 吉田寺 新宮谷

○ 吉徳大社の建立の御所観音

○ 護國寺 三条坊の御所

○ 桓武天皇の御所始と遷都

○ 白雲造栄の御所泉涌出

○ 池とある方八町也後多羽院

再真神白水苑と云

○牛尾山法蔵寺 牛の尾

本寺親世青天真帝の代行
唐居士青羽山家にて死す

○柳山十符寺 山神四のま

本寺親善青野使太子の代

○光船山引振寺 千手輪蔵寺

再基定寛中興盛宗法仲倫
テの像あり定躬の作善壽の
会佛、如痛と人始る也

○岩所の類

白川 南條寺のたぐりあり

あがり要流くる川也

白川の傍のやまより
は嶽新

岩茶山 北岩路の四方あり

帝於往後乃ち一切経を

て四方の山に埋ま

とらりてなる岩とて白川

東南禪ちりとなりと云ふ

う傍の後、西にう

大和のまあり

むすくさ作と

栗田山 栗田はらり

のまあり飯子を

花頂院のあり

うれめと

山階里 那の石也

切へり

長持山 相坂の雲

相坂の雲の水

音相の山の

花山 清水の東也 遍照の回
路ありやうと山神の内々 後山とよみ
あり花山也

栗栖神 伏見の東 硫磺の西也

アサギとせの岩をうしむく加ふりり

くすすの小形乃 森の焼魚

篠の澤 山際乃 ころよち

東より二里あまよりあり

後あり くりく 佛櫃の所に

ちるをり

日吉の社 神社の所よりくち

ひまするさる根の方向を眺く

いそよ日吉のちる ー ー ー 見ん

稲荷 神社乃 亦にあり

清水よりくすぬいありあり

七日乃 ぼろく ー ちる ー 見ん

伏見山 東より八里のころあり

いかりの山の傍也

伏見山 伊東の南里 傍也 棄切

佐竹のころに

冬の夜のころに 夕月まきすかみ

かーころに ぼろく ー ちる ー 見ん

木懐山 伏見の東あり 捨送報の

ころに 人丸

山嶽のころに この里に ありありあり

笠取山 硫磺の南 木懐の東也

人あかり 在る元方乃 ころに

ああると 身あも ころに せと 笠取乃

あい ころに ころに ころに ころに

之治の山 東より八里の方 三里也

あよ 近江の水海より 流るあり

未だ 淀川へ 流る川 あり 流るあり

標 あり あり あり あり あり あり

の 傍 あり あり あり あり あり あり

右 あり あり あり あり あり あり

世 あり あり あり あり あり あり

世 あり あり あり あり あり あり

竹田河原 淀より東伏見方と
と野々木を渡り淀川
竹田の田苗やうららに多梨

多羽 秋の山 同地多羽乃
うらら若菜也竹田に近し一系

より二里余淀の傍也多羽の院
やまをくすの相風は月さして

淀 何 淀川のうららに川か架
樹 傍くくうららあるものと
東より未申の方三里也

美豆押 淀川の南の方也とら
卯牧と傍くともいふのも也

八幡山 林社乃木子くうを
傍くともく林のやぐらとく

海辺里 東より奈良へ移る也
木津川 川に約せと木津

の里とのるなり木津く云南

泉川 淀より南奈良の飛た
ちて木津に近し一古名族あり

松の森 東より大和の道
川をささむ一なるややめ

淀川 淀の小橋の浮田の裏
のあたりけり後多羽の地割

多羽の林乃うすくこう
岩田の小井より射ぬあり

神南海社 山崎の西也
西社ありび一所に地あり

水 東より未申の方也若菜之
くはらびし射ぬありを海つ

水 山崎に近し一男あり
西にありて古名族のうらら

ト吹くうひく糸一さりのと

桂川 西川云々条道の西也

大倉川 九条の南よりか南あり

大倉川云々一町の山よりより

津代のもくおのひ切らり業平

小塚山 大東川のうらにあり東

より西里よりり也春日の末社

さらあよ地所中雲谷とりの

山ちわりより一とくまも地山

のうの也

雲谷の里 西山青生地より南也

光後新居のあり

この山乃ぬりしよりくさけの

松尾 雲谷より也社社の山に

くりく書記より

万代と松の尾山のうも養子

松の尾と嵐山の間也

松尾川 洛の西松尾より

舟後一も檢送箱のうに

名のこしをかきつてもおの松つえ

大井川 洛の西磯原大跡この

糸の川也業平のまの

大井川より舟のうらに

とくらの山と右のまよりり

嵐山 洛の西松尾の小法務

ちの後の山也

亀尾山 磯原天跡との山に

名地の尾乃山のまのまの

復忌 仁和寺の東の方の

阿太子山 松尾月脇の里

二の山 洛の西よりである

乃なるびさぐの小山

下也梅尾核尾等を謀也

小川 仁和のたぐちうびの里

の小より流せたる小河也

所る際々西の川をよこせ流せん

西に寸浪もあはれやちり流せ

位山 一条より水の通也

より未申也或ち帝王の御在所

とさうしてはなれり云流あり

小川 一条より成亥もあはりて

天神の御社を社社のふもあはり

紙谷川 小川の西也

車野 小川の東也

ト小川 一条より成亥もあはりて

よい系地のあしひのさうに足

をせりといひ小川の東也

小山 東より成亥也

松尾地 室町也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

小川 若狭の境也

松ヶ崎 桑より一里半也

水家山 洛の小松ヶ崎より廿宣也

大魚 松より三里八坂より廿宣也

横川 初えの山の北也

比叡山 玉座の七寅なり

御祭山 松ヶ崎の北なり

吉田の地也

神木里 吉田山春日の社より南

比叡山 比叡山の南山後也

比叡山 玉座の七寅なり

御祭山 松ヶ崎の北なり

吉田の地也

神木里 吉田山春日の社より南

比叡山 比叡山の南山後也

比叡山 玉座の七寅なり

御祭山 松ヶ崎の北なり

吉田の地也

神木里 吉田山春日の社より南

比叡山 比叡山の南山後也

比叡山 玉座の七寅なり

御祭山 松ヶ崎の北なり

井原とくろく一条大宮より小川
千本近くより所つ迄のいふ也
舟是と小川よりの也
紅きふきおきの林の時多あり
おれ懐人おむひき

中川 小川より一条大洞院へ
流るるより今中川をのり
東松川よりより所はうら
多く人の夜う川をこの厄の夜
もる中川の宿とあるはあ
ころりかるところ

湯の井 勅使中川と中川の
湯の井のり也
湯の井 六条より条あり軒
大にの同迄也業平のうらに
坊るもよいははよきん坊かきに
つりする舟はこころのうらかん

同国中名物出所部

曇光院殿の干此埋

忠孝 冠帯 總務物

糸竹具 ゴトヒハヤ コセンヨコ笛笙

帽子 結麻子 日粉 御

簾 諸色漆物 羽二重

撰練 縮緬 共蘇織物

池川 イケガハ 蟹 カニ 粉

茶 カハ 柳 ヤナギ 柳 ヤナギ 柳 ヤナギ

梅津 梅津 梅津 梅津

宮司 梅干 梅干 梅干

大徳寺 大徳寺 大徳寺

カブナチ 大井川船モトキ
 ち尾碇 鞍のトヨ 八瀬の
 黒木 御石の流木を吉田大根
 栗田ヨキセル 尾山ヒシホ 花山
 タバコ 大佛餅 智羽ウリ
 宇治丸 宇治茶
 同ウス 尾山碇

右の外洛中洛外より
 名物不遺記 畠山

卷之二終



